

今年は阪神・淡路大震災発生から15周年に当たります。私達はこれからも災害に備えて活動します。

NPO 法人 都市災害に備える技術者の会

技術者の会 “ニュースレター”(issue19)

Professional Engineers Association of Urban Disaster Preparedness

発行日：平成22年1月1日 2010年
事務局：(太田ジオリサーチ内)
都市災害に備える技術者の会
〒651-1432
兵庫県西宮市すみれ台3-1
TEL:078-907-3120 FAX: 078-907-3123
URL:<http://toshisaigai.net/>
e-mail: office@toshisaigai.net

目次

1. ご挨拶…………… 1
2. 事務局より…………… 6
3. 行事予告・報告…………… 7
4. 活動報告…………… 8
5. カレンダー……………11
6. 編集後記……………12

1. ご挨拶



新年を迎えて

理事長 室崎 益輝

新年明けましておめでとうございます。

さて今年は、阪神・淡路大震災から15年の節目です。その節目にあたって、原点に戻る必要があると、私は考えています。その原点というのは、震災によって技術者のあり方が厳しく問われ、多くの課題が課せられたということです。その課題に応えるために、私たちの「都市災害に備える技術者の会」が結成されたので、原点に戻るということは、私たちの会の存在理由を確かめることにもつながります。

そこで新年にあたり、改めて技術者が問われた課題を整理しておきたいと思います。その第1は、防災や減災の技術の未発達です。安全のための技術開発を怠ってきたことを、反省しなければなりません。第2は市民とのコミュニケーションが弱かったという問題です。これからは、技術者が市民に胸を開いて積極

的に語りかけて啓発に努めなければならない、ということ。第3は、異分野の科学者あるいは技術者の間の連携に欠けていた、ということです。縦割り社会における横つなぎのシステムをどう作るかが、ここでは問われています。

15年経過した今、こうした課題にどこまで応えることができているか、私たちの会の再点検をしなければなりません。市民やボランティアとのネットワークや技術者相互の連携については、皆さんの努力で進んできました。また、市民とのリスクコミュニケーションについては、防災教育に力を入れ始めることにより、何とか緒につきました。しかし、このコミュニケーションについてはもっと努力しなければならない、と思っています。

ところで問題は、減災の技術の開発と提案にほとんど手がついていないことです。行政に、防災や減災について技術面からの提案をすることが、もっとあつてよいのです。耐震補強の取り組みはこれでよいのか、地盤の危険度評価はどうすべきなのか、通電火災をいかに防止するのかなど、技術者は積極的に発言しなければなりません。最後に、この「政策提言の活動にも取り組もう」という初夢を述べさせていただいて、新年のご挨拶とします。

今年も、都市災害に備える技術者の会に積極的に関わっていただくとともに、温かいご支援をよろしくお願ひします。

以上

新年を迎えて

名誉理事長 笹山 幸俊

明けましておめでとうございます。皆様にはご家族ともどもよき新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。



今年は皆様もご承知の通り阪神・淡路大震災発生から15年がたちました。あれからも地球上の到る所で地震に限らず、風水害をはじめ人災的なものまで多種多様な災害が私たち人類を襲ってきました。そのたびに貴い人命と大切な財産等も失ってしまいました。

私たちは人類の叡智と経験を元にこれらによる被害の軽減を計ろうと努力してまいりました。そしてそのために集まった人たちが過去の経験を活かして行動しました。それが「NPO 法人 都市災害に備える技術者の会」の活動でした。すでに創設されて6年近くが過ぎようとしておりますが、「防災・減災のためのネットワークづくり」と言う大目標に向っての民・官・学の組織づくりと、具体的な活動としてパネルディスカッションなどを通じて各界より集まった人々による経験の情報交換などが行なわれてきました。その他にも会員の各方面での活動など次第に活発になっております。(社)日本技術士会近畿支部(建設部会)が主催の年2回(1月と6月)の震災対策技術展にも共催参加しておりますが、この活動も一般の人たちへの広報や訓練の面で多いに役立てられているのではないのでしょうか。

今年も会員の皆様のご健康とご多幸を心から祈念しております。 以上

新年を迎えて

副理事長 溜水 義久



あけましておめでとうございます。

昨年秋、東北地方のある団体から阪神淡路大震災の時の話を聞かして欲しいとの要請を受け、短時間で何を訴えられるかなと悩みつつ、「都市災害に備える技術者の会」のメンバーとしての責務を果たして参りました。震災発生から14年が過ぎ、復興現場から退いて10年余りが経過していましたが、自身でまとめた原稿や様々な資料を振り返りますと、当時の様子がまざまざと蘇ってまいりました。まったくの無防備な状況で起きた大都市直下型の大地震、情報途絶、刻々変化する状況への対応等々、当時の状況に比べますと現在は様々に進化してきています。例えば、国土交通省の緊急災害対策派遣隊(TEC-FORCE)は、平成20年の岩手・宮城内陸地震や、東名高速道路の路肩が崩壊した昨年8月に起きた駿河湾を震源とする地震への派遣などでの活動を報告しています。また公共団体間の広域防災応援(相互援助)協定も広がっています。しかしこれらが百パーセント稼働したとしても、被災者になる前の一人ひとりの防災、減災への取組みに勝るものではありません。NPO法人としてこれまでに積み上げてきたネットワーク作りを更に広げ、様々な経験や知見、ノウハウを伝えて参りましょう。

以上

新年おめでとうございます

今年も皆様とご家族の益々のご発展とご健康を祈願し、役員会と企画委員会と事務局一同と共に新年のご挨拶申し上げます。

梅田昌郎 柏原士郎 片瀬範雄 太田英将
新田保次 尾見博武 他役員、企画委員会委員
事務局員一同

年頭のご挨拶

企画委員長 河田 恵昭



京都大学に学生・教員としてこれまで44回もお正月を過ごした。そして、初めて関西大学の教員として2010年の正月を迎えることになった。感謝するのは健康ということである。でもそのリスクがどんどん大きくなっていることに気がついている。健康だからこそ、防災・減災の研究を継続し、それに関係した行動ができるのである。人間ドックで潜伏している大病が見つければ、一巻の終わりである。そのことを覚悟しながら仕事をしているから、仕事全体に凄味が出るのである。寸暇を惜しんで研究しているから、第一線に居続けることができるのである。

阪神・淡路大震災から15年を迎えようとしている。震災当時と比べて、社会の防災力は確実に強化されてきたと思う。しかし、全体がそうであるからこそ、余計に部分部分の防災力の差の大きさが目立つようになってきた。『悪貨は良貨を駆逐する』という譬え通り、準備が遅れた自治体、コミュニティ、個人が必ず周辺の人びと、組織の足を引っ張るだろう。でも切り捨てるわけにはいかない。では、具体的にどうすればよいのだろう。第一線の研究者であるという自覚が強まれば強まるほど、災害に脆弱な現実世界を、では一体どうすればよいのかという問いに答えられず、無力感に襲われることがしばしばある。

今年4月にJR高槻駅前に、関西大学はわが国で初めて『社会安全学部』という名の学部と『社会安全研究科』という名の大学院を発足させる。両者が同時に文部科学省の設置審査会で承認されたことは、奇跡に近いことだと思っている。それほど難産だった。内定の通知が届いたとき、咄嗟に思いだしたのは、青山士（あきら）の『万象に天意を覚ゆる者は幸いなり。国のため人のため』という言葉であった。土木技術者

としてパナマ運河の建設に立会い、そこで得た技術を駆使して荒川放水路や大河津分水路を完成させた土木技術者の言葉である。このような気概をもって仕事をやりたいと思っていた。そして、対象は代わるけれど、キャンパスも建物も教員も学生も“新品”の環境で、社会安全学を創設し、社会に貢献できる人材を輩出できる機会を与えられたことに感謝している。

しかし、社会安全学が本当に創設できるのか、学部と大学院の卒業生が社会に受け入れられ、高い評価をえられるのか、わからないことだらけの世界に入っていくことに大きな不安を抱きながら、新しい年を出発することになる。そこで成否の鍵を握るのは新しい人間関係である。それがなければ、文理融合を目指した共同研究ができない。その構築に積極的に乗り出すことができるのは、技術者の会の皆様らとのこれまでのご厚誼であり、それが底にあるから前向きに事に臨めると考えている。

今年も宜しくお願いします。

合掌

新年のご挨拶

内閣府政策統括官（防災担当）

大森 雅夫



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、皆さんの御健康と御多幸をお祈り申し上げます。

一昨年7月に現職に就き、二回目のお正月を迎えることとなりましたが、就任二年目の現在、その職責の重さに改めて身の引き締まる思いで一杯です。

我が国は、その自然的条件から各種の災害が発生しやすく、昨年も、7月の中国・九州北部豪雨、8月の台風第9号、駿河湾沖を震源とする地震、10月の台風第18号等、全国各地で被害が発生しました。内閣府といたしましても、これらの災害により明らかになった課題を踏まえ、特に、大雨における避難の在り方

等について、学識者の御参加を得て検討を開始したところ。このように、災害の度に新たな課題が生じることも多いのですが、今後とも迅速かつ着実に、解決に向けて取り組んでまいります。

一方、海外では、インドネシアスマトラ島沖、中国四川省における大地震などアジアを中心に災害が頻発しており、我が国の防災に関する技術や知識・経験をこの地域に役立てることが重要です。昨年10月31日には、神戸市において第1回日中韓防災担当閣僚級会合が開催され、建築物の耐震化への取組みについての情報共有や人材育成などにおける防災協力を日中韓3カ国で推進していくことについて合意したことも記憶に新しいところです。

私ども内閣府は、これまでも大規模な災害に際し、行政機関による「公助」と同時に、地域の人々や企業・団体が力を合わせ助け合う「共助」の役割が大変重要であることを申し上げてきております。

貴会の活動は、「都市災害」に着眼しておられる点はもとより、行政と市民、技術者と一般の方々をつなぐネットワークの構築を目指し、「共助」の促進に具体的につながる取組である点で、私どもの考えと軌を一にしておられ、まさに時宜に適ったものと受け止めております。

私どもも皆さんの活動の今後の展開に期待し、心から応援いたしております。

本年もどうぞよろしく願いいたします。

以上

政権交代後の国土交通行政

国土交通省国土計画局 広域地方整備政策課長

渋谷 和久



新年あけましておめでとうございます。

昨年は、9月16日の鳩山内閣発足以降、国の行政が大きく変わった年でした。国土交通省には、前原誠司大臣はじめ副大臣、大臣政務官合計6名の「政務三役」が就任され、政権発足

直後から精力的に政治主導の行政運営をされていることは、報道等でご承知のことと思います。本稿では、そうした、国土交通行政をめぐる新しい動きをご紹介します。

(1) 政策会議

省内では、重要な案件はすべて政務三役会議で検討、意思決定されます。また、新政権での新たな取り組みとして、政府・与党一体による政策実現に向け、各府省で、副大臣主催で、与党議員との「政策会議」が開催されることになりました。

第1回の国土交通省政策会議は昨年10月13日開催され、第三合同庁舎10階の大講堂が満杯となる300人近い方が出席されました。政策会議の資料は、国土交通省のホームページに掲載されます。

http://www.mlit.go.jp/page/kanbo01_hy_000564.html

ダムやJAL問題に関する資料、予算概算要求や税制改正要望の見直し結果など、現政権下で進められている国土交通行政に関する最新の資料を、配付資料の形で確認することができますので、ホームページは要チェックです。

(2) 国土交通省成長戦略会議

新政権になって、公共事業の見直しなどが行われていますが、これまでの取り組みを見直すというだけでなく、将来を見据えた成長戦略を練り上げることも必要であるという前原大臣のお考えのもと、「国土交通省成長戦略会議」が設置され、昨年10月26日に第一回の会議が開催されました。

http://www.mlit.go.jp/policy/kanbo01_hy_000574.html

我が国は、人口が減少に転じ、急速に少子高齢化が進展するほか、国家財政も多額の長期債務を抱えているという、大変厳しい局面を迎えています。このような局面において、将来にわたって持続可能な国づくりを進めるためには、我が国の人材・技術力・観光資源などの優れたリソースを有効に活用し、国際競争力を向上させるための成長戦略を確立しようとするものです。

座長は武田薬品工業株式会社代表取締役社長の長谷川閑史氏、座長代理は株式会社ボストンコンサルティンググループ日本代表の御立尚資氏で、13名の各分野の有識者で構成されます。

検討課題は大きく ①海洋国家日本の復権、②観光立国の推進、③オープンスカイ、④建設・運輸産業の更なる国際化、⑤住宅・都市 の4分野とされており、たとえば①では、港湾の競争力強化、③では航空行政の競争力強化などが議論の中心となる見込みです。

第1回の会議で長谷川座長は、おおむね次のような報告をされました。

我が国は岐路に立っている、戦略・ビジョンを欠いたままだと、「国家の均衡ある衰退」へ向かうが、戦略・ビジョンを再構築することで、「国家の均衡ある繁栄」へ向かうことが可能となる。厳しい状況の中での日本のサバイバルの道として、少子・長寿化社会が進展する中、内需主導のみによる経済成長は非現実的。国内では、質的成長を目指すと同時に海外からの投資を呼び込む一方、成長している市場（BRICs等）に進出し、成長の分け前を勝ち取るという、「量的成長戦略（グローバル化への対応）」と「質的成長戦略（福祉の充実と地方の自立化・活性化等を通じた内需喚起）」のバランスが求められる。しかし、実は既にメニューは揃っており、これをどう実行して政策に取り込んで日本を成長させるかが課題である。

成長戦略会議では、本年5月末頃を目途に最終報告をとりまとめ、その内容を23年度予算要求に反映させることとしています。

さて、政権発足後、昨年末までは、概算要求の見直し、経済対策（第二次補正予算）、税制改正、予算編成と、様々なスケジュールに追われてきた感がありましたが、年明けからは、成長戦略会議など、将来を見据えた政策の議論が本格化することと思います。

ところで、今年の1月17日、阪神・淡路大震災から15年がたつこととなります。この間、国の防災行政も大きく変わりましたが、最大の変化は、被害を想定（リスクアセスメント）し、事前の対策によってその被害を軽減（減災）しようとするのを防災行政で重視するようになったことだと思います。

前原国土交通大臣は、防災担当大臣も兼務されていますが、昨年10月神戸市で開催された日中韓防災担当閣僚級会合における「共同声明」には、「建築物の耐震化推進」に向けて三国が協力することがうたわ

れています。一昨年発生した中国四川大地震でも、建築物の耐震性を確保することの重要性が認識されましたが、日中韓で、三国が過去の災害で培った教訓等を共有することも確認され、国際的にも、減災を重視する流れが、ますます進むものと考えられます。

こうした中、「NPO 法人都市災害に備える技術者の会」の皆さまが、その専門的知見を活かして、内外でさらに活躍される年となりますことを祈念して、本稿の結びとさせていただきます。 以上

防災分野の技術者の方々への期待

内閣府政策統括官（防災担当）付企画官
東 真生



新年あけましておめでとうございます。

昨年7月より、内閣府防災担当で災害予防担当企画官をしております東（ひがし）と申します。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

前職は、大阪に本社のある阪神高速道路（株）の総務人事部総務・法務課におり、株主総会、取締役会、コンプライアンス等の業務に加え、会社の防災対策の取りまとめ業務を担当しておりました。

そこでの一番の思い出は、高速道路会社で初めての「事業継続計画（BCP）」を作成し、平成20年4月からスタートさせて訓練などの運用に取り組んだことです。申すまでもなく、阪神高速は阪神・淡路大震災のときに、神戸線の脚柱が倒壊したり、湾岸線で架けたばかりの橋が落下したりと甚大な被害を経験しました。社員には当時の記憶がまだまだ生々しく残っており、それが重要な教訓として活かせ、遠くのものにならないうちという思いをみんなが持っている中で、直下型地震をリスクとして想定するBCPの作成作業を進めました。その際、感動したのは、特に技術者の方々の防災対策への思い、中でも人命に係る安全確保と二次災害の防止を最優先課題として対策を練る情熱でした。おかげで、一気呵成に進みました。そして、作成作業完了後に実施した検証のための訓練

も熱気を帯びたものとなり、たくさんの気付きがありました。

現在、職務として、企業におけるBCPの策定促進施策を担当しておりますが、これも運命かなと前向きに頑張ろうと思っています。

また、阪神・淡路大震災を契機として防災上の重要性が広く認識された「防災ボランティア活動」の環境整備のための調査検討にも携わっております。その中では、専門技術集団としての防災ボランティアの育成のあり方が大きなテーマの一つとなっているところです。阪神・淡路大震災から15年の節目にあたり、ボランティアの方々と意見交換しながら、積極的に取り組んでいきたいと思っています。

「NPO法人都市災害に備える技術者の会」では、災害の中でも近年課題が大きく取り上げられている都市災害を特に重要なターゲットとして、行政と市民をつなく技術者の方々が防災分野の専門技術を核としてネットワークされていると承知しております。皆様におかれましては、今後とも防災分野の技術力と知見を活かして力強く全国に発信されますとともに、内閣府防災担当にも暖かいご指導・ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。以上

新年ご挨拶

(社) 日本技術士会 会長 高橋 修



平成22年の年頭に当たり、ご挨拶申し上げます。

時間が経つのは早いもので、あの阪神淡路大震災以来15年が経過しました。この間、神戸市をはじめとする関係機関、関係団体では「災害対策セミナー」など、防災・減災へ向けた取り組みが継続的に行われてまいりました。NPO法人「都市災害に備える技術者の会」も創設以来6年目を迎え、継続的にかつ活発に活動を展開されております。初代理事長の笹山幸俊前神戸市長、現理事長の室崎益輝関西学院大学教授、山田俊満日本技術士会近畿支部建設部会長はじめ、関係者の皆様の献身的ご努力・ご尽力に対し心から敬意を

表します。

防災・減災活動の基本は地域行政、地域住民との連携です。また、若者主体の地域ボランティアとの連携も欠かせません。都市部では住民間の連帯感が薄れています。なんらかの住民運動を立ち上げることで住民間の連携が深まることが期待されます。防災に限らず、例えば生活廃棄物（ゴミ）の減量運動とか省エネ対策キャンペーンとかの住民活動を活発化することで住民間の連帯感を強化することが可能と考えます。NPO法人による防災・減災活動が、今年も活発に展開され、来るべき災害への備えとなる事を祈念致しまして、新年のご挨拶と致します。以上

2. 事務局より

事務局長 山田 俊満

新年おめでとうございます。今年も会員の皆様共ども天災や人災が何時襲ってきてもよいように平素より備えておきたいものです。1月20日開催の災害対策セミナーin神戸へ講師として当法人の河田恵昭企画委員長に出席をお願いした所、当日は学校の理事会に重なりました。伺った所では「社会安全学部」新設とのことで、適当な時機を見て河田先生を通じて本会と交流（ネットワークづくり）を計りたいもの。また本会会員の渋谷和久氏（国交省国土計画局広域地方整備政策課長）には時々お会いするが、その闊達であり乍らも舌鋒な論調での講演をお願いしております。内容によっては建設部会の後援にしてもよいと思われます。その他にもワーキンググループがそれぞれ活動を続けていますが、いずれこのグループは防災・減災のためのネットワークづくりを手助けすると同時に、よりその輪を拡げる活動へと移行されることを期待します。

さて平成16年4月の当法人設立から、この4月で7年目を迎えるようとしています。この間、会員の皆様からの提案や問題提起により、（会員の持つ専門性を生かした）4つのWGが組織され、現在、特色のある活動が進められています。

また防災教育の推進を図るため、様々な団体や年齢層を対象にした講演会や出前講座を実施するなど「一

般市民への防災啓蒙活動によって減災につなげていく」というNPO設立時の目的の一つに向かって様々な取り組みが着実に進められています。

その一方では市民や各界からの期待に応えるためには、これまで以上に会員の輪を広げるとともに、現地・現場主義を念頭におきながら防災、減災に向けて積極的かつ果敢に取り組んでいくことが求められていると考えています。その際に技術士会との協力関係の強化とより積極的な参加が求められることになります。

このような状況を踏まえ、これまでの当会の活動内容を振り返るとともに、今後の活動のあるべき姿を検討するため、幹事会（仮称）設立準備会を立ちあげ、議論した結果、準備会では従来の理事会や各委員会の活動を尊重しながら、これらを補佐する組織として軽いネットワークと機動力のある組織が必要であるとの認識を持って幹事会の設立へと運びました。この経過と結果は理事長と理事に報告されるが設置規約案作成や関係者説明は幹事会に委任されました。

なお、幹事会の幹事につきましては設立準備会に参画した各WGの代表者に関係機関および公募で参画を表明された会員を含め、合計8名で運営していく事になりました。また、当面は幹事会の座長として山田信祐氏（京都市）が当たることになりました。

終りに当会は今後の来るべき災害に備え、少しでも社会に貢献したいとの高い志で集まった技術者からなる組織です。この目的を果たすためには企画委員会やWGをはじめ様々な取組への会員各位の積極的な参画が不可欠です。

当会の活動の発展のため、幹事会についてのご意見や提案をはじめ、積極的なご参加をあわせてお願いいたします。

以上

3. 行事予告・報告

新春早々、恒例の神戸国際会議場における「災害対策セミナーin 神戸」が開催されます。多数のご参加をお待ち申し上げます。

第3回「災害対策セミナーin 神戸」

都市災害に備えて活動を続けて15年
—防災・減災のためのネットワークづくり—

理事 森田 孝雄

- 日時：2010年1月20日（水）13:00～17:00
- 場所：神戸国際会議場 503・504 会議室
神戸市中央区港島中町 6-9-1（ポートライナー市民広場駅）
- 主催：（社）日本技術士会近畿支部建設部会
- 共催：（社）日本技術士会近畿支部・NPO 法人都市災害に備える技術者の会
- 後援：（社）日本技術士会建設部会・防災支援委員会
- 主題：都市災害に備えて活動を続けて15年
—防災・減災のためのネットワークづくり—
- 内容：—防災・減災のためのネットワークづくり—を取り上げるにあたり、①学生達のボランティア活動②災害時の要支援者などの活動③市民（個人・組織）と行政、以上、三つの立場での発言を頂く予定です。
- 開会挨拶：（社）日本技術士会会長 高橋 修
- 来賓挨拶：前神戸市長（震災時の神戸市長）
笹山 幸俊
- 開講に当り：（社）日本技術士会近畿支部
建設部会長 山田 俊満
- 基調講演：NPO 法人都市災害に備える技術者の
会理事長 関西学院大学総合政策
学部教授 室崎 益輝
- パネルディスカッション
パネリスト：西大和 6自治会事務局防災担当・上
牧町議会議員 辻 誠一
パネリスト：泉大津市立病院総括主査
政狩 拓哉
パネリスト：神戸学院大学防災社会貢献ユニット
河田のどか
パネリスト：（社）日本技術士会防災支援委員会
委員長 大元 守
総括コーディネーター：（社）日本技術士会近畿
支部建設部会長 山田 俊満
- 閉会挨拶：（社）日本技術士会近畿支部建設部会
副部会長 森田孝雄
- 参加人数：150名（予定）
- 問合せ先：（社）日本技術士会近畿支部建設部会
- 申込み先：〒550-0004 大阪市西区鞠本町 1-9-15
近畿富山会館ビル2階

(社) 日本技術士会近畿支部建設部会 森田孝雄

TEL&FAX : 06-6444-3722

E-mail : pe@ipej-kinj.jp

● 資料代 : 1,000 円

次に、前号 18 号 (7~8 頁) において詳しく報告いたしました。昨年 1 月と 6 月に本 NPO 法人関係で開催したシンポジウムと講演会は次のとおりです。

第2回「災害対策セミナー in 神戸」

大震災を経験して14年

—防災・減災活動の方向—

● 日時 : 2009 年 1 月 16 日 (金)

● 場所 : 神戸国際会議場

第3回「震災対策技術展・自然災害技術展」

大阪市民・学生達と考える防災・減災ネット

ワークづくり(その2) —市民と行政との絆—

● 日時 : 2009 年 6 月 4 日 (木)

● 場所 : インテックス大阪

4. 活動報告

(1)WG-Aの活動報告

WG-A代表 西山 峰広

(京都大学大学院工学研究科 教授)

WG-Aは、「まちづくり・教育を考える」活動グループです。

2009 年 10 月 3 日、京都大学近くのカフェ進々堂において「第 3 回防災カフェ : 1999 年台湾地震に学ぶぞ!」を開催しました。このカフェでは、海外の直下型地震の例として、1999 年 9 月の台湾地震を取り上げました。台湾地震では、現地の設計・施工慣習により大破・倒壊した建物がある半面、一見弱そうなレンガ壁でも建物の耐震性向上に役立ったことが、近年の研究で分かってきました。有限要素解析技術や、簡易振動台の模型実験により、台湾地震の建物被災の様子を解説しました。

2009 年 8 月 1 日、8 日、9 日には、大阪市住まい情報センターにおいて、小学生の親子向けセミナー「家をつくろう」を開催しました。今年で第 9 回目となる「家をつくろう」には約 40 組の親子が参加して、「祭り」をテーマに知恵を絞りながらダンボールの街をつくりました。大阪府建築士会青年部会の多大なご

協力のもとに盛大で楽しい催しとなりました。

また 2009 年 9 月 19 日には、奈良県王寺町の泉の広場において、小学生向けネイチャースクール「防災について学ぼう」を開きました。参加者が各自用意した新聞紙の棒を組み合わせて建物模型をつくり、筋交いなどの効果を振動実験で確かめました。

WG-Aでは、子どもから大人まで楽しんで防災を学べる教材や手法を、今後とも工夫したいと考えています。以上

(2)WG-Bの活動報告

WG-B代表 石川浩次 (企画委員)

本ワーキンググループは、「津波・地震災害軽減を考える」活動をメインとしたグループである。本年度は、定例的な会議の開催は行っていないが、対外活動として、小職等は、以下の活動に参画した。

先ず、中国同済大学・上海市技術協会・上海工学会の研究者・技術者を招いて開催された「2009 日中科学技術交流大阪シンポジウム—環境保護先進未来都市に向けて ((社) 日本技術士会近畿支部主催)」に、論文投稿と災害に強い都市・危機管理分科会の座長として参画した。また、(社) 地盤工学会関西支部「兵庫県南部地震を後世に伝承するための研究委員会 (委員長・神戸大学大学院工学研究科渋谷啓教授)」に委員として参画し、地震に対する備えを意識した社会基盤造りへの地盤工学技術の貢献を目指して、市民を対象とした公開講座の企画開催を実行参画した。さらに、「防災」に関する日本技術士会近畿支部講演会の企画開催を、近畿地方整備局企画部長塚田幸広氏と京都大学防災研究所鈴木進吾助教を迎えて、「自然災害に備える~被災から得た教訓の継承~」と、「インドネシアの津波災害の現地調査の事例報告」の講演を頂いた。

これらの諸活動は、近畿地域における本 NPO 機関関連の他の活動であるが、本質的には、本 NPO の活動目的と同一なものとして意識して活動参画したものである。これら諸活動の共通なものとして、産・学・官共同のもとに、特に、我々防災技術者が、「官」と「地域住民」の間に入って、防災のための繋ぎ役を果たすべき活動が特に大事なものと意識したのものである。本グループの活動は、基本的には「津波・地震災害軽減を

考える」に関する研究活動を主目的としており、例えば、きめ細かい「地震動被害予測地図」の作成の必要性を通感している所であるが、今後は、他機関とも協同して、地域住民のための防災・減災活動を推進してゆくことも肝要であると考えているところである。

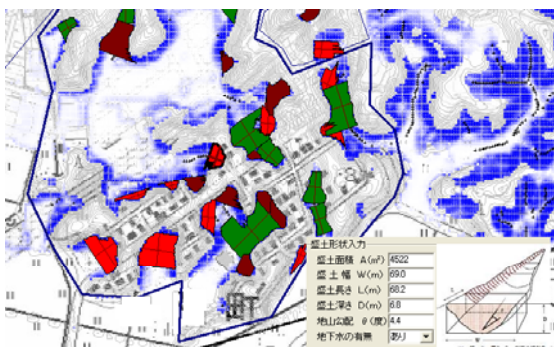
以上

(3)WG-Cの活動報告

WG-C代表 太田 英将 (理事)

本ワーキンググループは、「谷埋め盛土防災を考える」をテーマとしています。2006年の宅地造成等規制法の改正時に際し技術的な協力を行いました。現在、WG-Dと活動を一緒にしています。今年度から、法改正時の国交省課長補佐だった廣野会員(現真宗大谷派寶福寺副住職)が、コアメンバーとして参加されるようになりました。

6月には(財)全国建設研修センターにおいて主に行政職員を対象とした「宅地造成設計・施工研修」の講師を、当WGの太田リーダーが本NPO法人理事の立場で務めました。



宅地盛土危険度マップ (イメージ)

7月には宅地耐震化推進事業連絡会が東京で開催され、全国で実施されている第一次スクリーニング～第二次スクリーニングの情報交換会が開催され、静岡県・京都府(民間造成)・鳥取県・横浜市・和歌山県・千葉県の例が紹介されました。この会合には太田が参加し、宅地盛土の地震時安定性評価方法について紹介しました。

また秋には、某地域からの要請で造成団地の盛土・切土区分と、盛土の地震時安定性評価を行いました。造成地においては、必ずと言っていいほど谷埋め盛土が存在し、その中で地震時に危険と判定されるものもほぼ間違いなく存在します。その結果を住民に伝える

リスクコミュニケーションが、今後の重要な課題ということがわかりました。

地震の活動期に入ったことは過去の歴史からみて疑いようのない事実であり、日本各地の大規模造成地がその洗礼を受けるのは歴史上初めてのことです。このため、今後も宅地盛土の滑動崩落によって滑動崩落の被害が生じることも疑いようがありません。その被害を少しでも少なくするためにWG-Cでは今後も地道に活動を続けて行きます。

先に書きましたように、現在WG-Cは、WG-Dとはほぼ活動を共にしているので、この活動に興味を持ち、参加を希望される方は両方のWGへ参加していただくようお願いいたします。以上

(4)WG-Dの活動報告

WG-D代表 伊藤東洋雄 (事務局次長)

NPO法人都市災害に備える技術者の会の活動には、「専門的研修活動」、「市民啓発活動」、「行政及び市民との日常的な連携関係の構築」等があります。その中で、WG-Dでは、14名のメンバーで「地域の自主防災活動との連携や支援」、「幼稚園から大学までの出前講座」、「市民や学生を対象とした防災・減災のための教材作り」などに取り組んでいます。前号の「ニューズレター18号(09,07,01発行)」以降の活動はおおよそ次の通りです。

1. 定例会議

偶数月の第一土曜日に定例会議を行い、WG-Dで取り組むテーマの設定とその進捗状況の確認、活動を進めていくための課題等について情報交換を行っています。09,07,01以降4回(臨時会議1回含む)開催しました。

会議内容は、諸々の情報交換のほか①モデルケースで行った「谷埋め盛土危険度評価結果」について、②内陸型地震発生メカニズムの解説資料作りについて、③地震発生確率の分りやすい表現方法について、④高潮と違う「津波の威力」の分りやすい表現方法について等である。

2. 対外活動

2.1 奈良県王寺町主催「泉の広場教室」での防災講演会

09,09,19(土) 13:30～15:30、『防災について学

ぼう！一大地震 君は生き残れるか』を開催した。

参加者は一般参加者約30名、主催者側3名、当NPO側4名、講師は京都大学佐藤裕一先生と院生（梶原氏）にお願いしました。



新聞紙で作った家の骨組みの耐震実験

2. 2 某ニュータウンでの「谷埋め盛土危険度評価」説明会

09,10,23（金）、某ニュータウンの自主防災組織に対し、宅地耐震化促進事業の説明と、谷埋め盛土危険度判定について説明を行った。

先方は4名、当NPOから2名が参加した。

2. 3 奈良県王寺小学校での出前授業「防災研修」

09,11,05（木）10:45～12:15、奈良県王寺小学校において「防災研修」～阪神・淡路大震災の様子を聞き、地震への備えを学ぶ会～を開催した。

対象は5年生全員（約110名）、先生5名（教頭、担任他）、陪席3名（神戸市職員と奈良市春日中学校教諭）で、講師は当NPOのメンバー片瀬範雄氏が務めた。



授業風景

2. 4 奈良県片岡台幼稚園での「防災紙芝居」

09,11,16（月）10:20～11:00、奈良県上牧町片岡台幼稚園にて「防災紙芝居」を開催した。



紙芝居の表紙

対象は園児（3～5歳）260名、園長（1名）、担任（8名）で、講師は地球防災隊の河田のどか（神戸学院大学）、池田早苗（関西学院大学）の2名が務めた。



お話を聞く園児たち

（追伸）当WG-Dでは、今後更に取り組み分野を広げたいと考えています。そのためにもより多くの皆様方が趣旨に賛同され入会・参加して頂けるようお待ちしております。以上

★WGのご案内★

随時WGを開催しています。活動中のWGは、

- 西山峰広さんがリーダー
「まちづくり・教育」WG
- 石川浩次さんがリーダー
「津波・地震災害軽減を考える」WG、
- 太田英将さんがリーダー
「谷埋め盛土防災を考える」WG
- 伊藤東洋雄さんがリーダー
「当NPO法人の具体的活動について」WG

WGに参加するためには登録が必要です。

詳細はホームページでご確認ください。

<http://toshisaigai.net/wg/working.html>

5. 平成 22 年 Calendar 2010 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

5 月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

6 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

7 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

8 月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
28	30	31				

9 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

10 月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

11 月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

12 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

[行事予定] 1月20日(水) 第3回災害対策セミナーin神戸
 6月10日(木) 第4回震災対策技術展in大阪(予定)
 7月中旬 総会予定

★会費納入のお願い★

本年度（21年度）の会費納入がまだの方は速やかにお振込みいただきますようお願いいたします。

一般会員：¥5,000 賛助会員：¥25,000

【振込先】

銀行名：みずほ銀行
支店名：天満橋支店
口座番号：8072070
口座名：特定非営利活動法人
都市災害に備える技術者の会

★変更届け提出のお願い★

ご入会後に勤務先、住所などに変更がある場合、変更届けの提出をお願いいたします。変更届けは、HPよりダウンロードできます。すみやかにご提出いただきますようお願いいたします。（事務局）

この度新たに発足した幹事会幹事の皆様

幹事長 山田信祐（京都市建設局土木管理部長）
幹事 石川浩次（石川技術士事務所）
幹事 伊藤東洋雄（㈱シードコンサルタント）
幹事 太田英将（太田ジオリサーチ代表）
幹事 片瀬範雄（元神戸市職員）
幹事 西山峰広（京都大学工学研究科建築学専攻 教授）
幹事 廣野一道（真宗大谷派宝福寺副住職）
幹事 森田孝雄（日本技術士会近畿支部建設部会副部会長）

＝編集後記＝

心より新春のお慶びを申し上げます。さて、阪神・淡路大震災発生から節目の15年を経て、ハード・ソフト両面から、都市災害への備えの重要性を再確認する時期にさしかかったように思われます。例えば、厳しい財政状況の下、新政権による“事業仕分け”が進められ、身近な自治体でも大震災を契機に設けられた防災センターの運営経費不要論が話題になっています。問題意識に個人差が生じるのは致し方ないとも言えますが、大震災の風化を食い止めることは本NPOの重要な活動テーマではないかと思う新年です。その意味からも、このたび新たに発足した「幹事会」の活動には大いに期待したいところです。（K. S）

一年の計は元旦にあり

—日本全国に向けて— 山田俊満
一年の計は元旦にありと申しますが、本会に関係のあるお話をいたしましょう。

私達のNPO法人「都市災害に備える技術者の会」（以下NPOと略す）は阪神・淡路大震災を契機に、日本技術士会近畿支部建設部会が中心となって、以後の自然災害（現在では人災も対象）の発生時に備えようとした。その上で有志に働きかけてグループ化し、特に従来の組織縦割りの弊害を除いて「防災、減災の為のネットワークづくり」を目指して外部の有識者（民・官・学よりの）にも協力、推進者を求めました。幸い大震災の時に陣頭にあつて多くの経験を積まれた人達（例えば笹山前理事長（前神戸市長）、溜水副理事長（元兵庫県副知事）、室崎理事長（元神戸大学都市安全研究センター教授、前総務省消防研究センター所長）、河田恵昭企画委員会委員長（元京都大学防災研究所センター長））等々が当初から参加を表明されました。その他、行政、民間の多くの人達が参加しておられます。その行事は既に30回を越える研修会（講演、セミナー、見学や実習など多岐に亘る）や地域住民・社会への防災・減災セミナー（都市計画、地質・地盤、構造その他広範囲）などボランティア的性格のものが多いですが、他に会員内外からの経済的支援も若干ありますが殆どは会費でまかなわれております。丁度6年前には会員を中心とする有志の熱意と内閣府の認証への協力を得て今のNPOの設立が実現し、現在に至っております。

設立時には内閣府より、当初は近畿方面を中心に活動しているが、次第に活動範囲を関東から全国へ拡大することを期されておまして、今年是一部でその実現を見たいと言われております。

まさに一年の計であります。会員の皆様は元より、周りの人達の支持、支援もお願いします。